

令和4年度 学校関係者評価委員会 結果

1. 自己点検・自己評価について

学生のコミュニケーション能力向上を目指して、思考の整理と言語化、相手に伝える能力の向上に努力した。また他学年と交流する機会をつくり、研究的な能力の育成や看護観を伝え合うことにより互いの感性を磨いている。他には自治会活動等を通じ、学生の主体的行動を推進する教育的関わりにより、学生と教員との信頼が生まれている。

看護技術力を促進するための教育的関わりでは、演習や1年生の技術習得に対し、チューター制で練習場面から技術チェックまで一貫した指導を行っている。

地域の小学生を招いて説明会するなど地域に根差したアナログの活動とHP・SNSを生かしたデジタルを使ったPRに力を入れた。NHOの就職率・県内就職率ともに高く、地道な努力が功を奏している。

2. 卒業時のカリキュラム満足度評価について

コロナ禍であっても、カリキュラムをほぼ通常通り施行できている点は評価できる。特に力を入れて取り組んでいるコミュニケーション能力の育成については、看護師として就業する上で欠かせない。今後カリキュラム内容を工夫して能力向上に努めていただきたい。また、卒業時の満足度評価の「わかりやすい授業が多い」が一番低いのが、講師へのフィードバックと同時に、自律した学習者としての姿勢も育む必要があるのではないか。